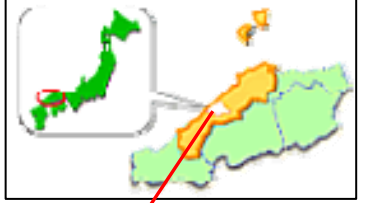
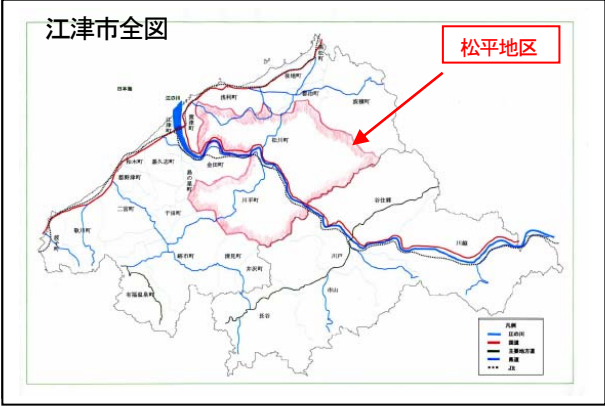


平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	1社1村交流による持続可能な地域づくりモデルの構築 ～企業と農村の戦略的互惠関係の構築による地域維持のあり方検証～
対象地域	島根県 江津市 松平地区（松川町・川平町を併せた地域の呼称）
対象地域の概要	松平地区は一級河川江の川が日本海に注ぐ河口から約 3～15km 上流に位置し、川と並走するR261 を挟んで東側が松川町、西側が川平町である。江の川沿いの豊かな自然と周辺の山地に囲まれた広範な地域で、面積は市域の約 4 分の 1 を占める一方、S30 年には 3,600 人であった人口は現在 970 人（江津市人口比 3.6%）で、高齢化率は 45.3%に及び、消滅集落の発生などコミュニティの存続が困難となりつつある地域である。     通りの2/3が空き家となった 国道隣接の集落（松川町市村）  空き家と比例して耕作放棄地 (2ha)が増え続ける・・（松川町市村）  無人化した集落（川平町瀬尻）  集落への進入道路は通行が 困難に・・（川平町瀬尻）⇒
提案内容の概要	松平村塾と松平ラボが共同して地域の課題を抽出し「地域自らができること」、「行政に任せること」、「都市住民パワーを活用すること」など課題別の対策を検討し、地域マネジメント・ビジョンを策定する。都市住民パワーの活用は、企業のCSRの受入れを通じて「1社1村交流」の互惠関係を構築し、その可能性を探る。
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	H19 年 11 月に松平村塾では、空き家か両親が地域内に残る県外転出者 21 人の地域ニーズを探るためのアンケート調査を実施した。その結果、耕作放棄地や家の周りの管理、墓掃除を望む声が多かった。一方で、地域内でシルバー人材の登録を行った結果、草刈や釣り、農業、子育て送迎、パソコンなどの人材登録があった。課題や人材を抽出したが、抽出した課題を「誰が」「どのように対応」していくのかという「対策」が未整理の状態であり、実際の活動へとつながっていない。 そこで、松平ラボをシンクタンクとして、多様な視点から地域課題を再抽出・分析し、その具体的な対応策を「地域マネジメント・ビジョン」としてまとめ、中長期にわたる地域づくり・地域維持のあり方を明確にする作業が必要である。
(2) 活動内容の案	活動①：1社1村交流（企業の社員が農作業に参加するCSRと自然体験交流） 内容： 企業の社員を高齢者が維持する農地の農作業へ参加させることで、集落に増え続ける「遊休農地」解消の可能性を探るとともに、農村を企業が支える仕組みを検討していく。一方で、松平地域が提供できる川エビとり・炭焼き・神楽などの農山村体験や、豊かな山・川・里の幸の提供など、地域と企業の双方がwin-winとなるような仕組み（交流）づくりに取り組む。

	活動②：地域マネジメント戦略会議（月１回程度）と地域マネジメント・ビジョン作成 内容： 松平ラボをシンクタンクとして、①意識・実態調査（アンケートやヒアリング）の実施、②戦略会議やワークショップ（村塾、ラボ、自治会、市職員など）の開催、③地域マネジメント・ビジョンの策定を行う。 活動③：「村を消すな！」明日へ繋がる地域づくりセミナーの開催（５回） 内容： 松平村塾のコアメンバーや危機感を持った地域の若者、企業の社員を中心に、地域マネジメントにかかる考え方や手法などを継続的に学習することのできるセミナーを開催し、地域の担い手人材を育成する。
応募団体名	松平村塾（島根県 江津市 松平地区） 松平ラボ（島根大学 教育学部 人文地理学研究室 サテライト・ラボラトリー）
リンク	http://matuhira.ikidane.com/
部局／担当者名	理事長 佐々木 建也
連絡先	0855-52-1970
推薦市町村名	江津市